



市民の声を整理する
そこから、まちは変わる

宝塚 NPO センター事務所で開催されている「きょう・どう？井戸端会議」

市民参画事業

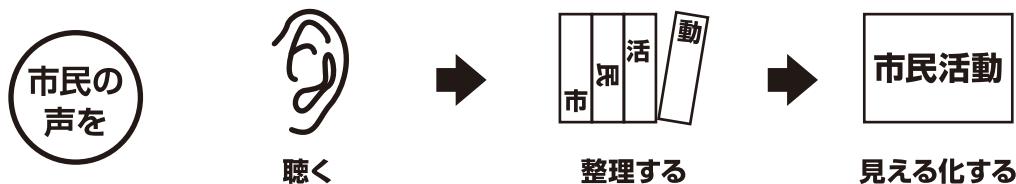
- 宝塚市市民活動促進支援事業 -

目的

宝塚市内でNPO法人や市民活動団体が行う地域課題解決に係るコミュニティビジネスの立ち上げ、運営相談、活動支援などを通じて、主体的かつ自律的なまちづくり活動の育成支援を行い、多様な市民が参加・参画する「協働のまちづくり」の実現を目的としています。

内容

- ・NPO法人の法人化と運営相談支援
- ・市民活動者・団体等へのコミュニティビジネス等起業・経営支援
- ・まちづくり協議会等の自主財源確保に向けた支援業務
- ・「おしえて！NPO」「宝塚NPOネットワーク会議」等、市民活動啓発・交流会運営
- ・「きょう・どう？井戸端会議」等、行政との協働環境構築に向けた啓発
- ・「地域参加準備講座」等、シニア・団塊世代の地域参加促進



報告

10
法人設立

572
相談

27回
(**232**人参加)
講座・イベント

今年度は福祉・医療系が2法人、まちづくり1法人、国際協力・支援2法人、社会教育3法人、スポーツ2法人の計10団体が宝塚に生まれました。法人化をキッカケにして現在続いている活動を更に深め、細やかなニーズに応える手段として捉えておられる姿は宝塚における市民活動が成長しているなによりの証拠です。

法人化した団体のみならず、「シニア向けICT利活用支援」や「地域住民の居場所作り」「災害に強い関係性作り」等地域をよくしようと思われる市民や市民団体の方から基盤整備を目的とした補助金・助成金取得相談も多くみられ、継続を前提とした新たな活動の始まりを感じています。

また「市民活動は決して特別のものではない」という啓発も私たちの大切な役割。86歳の方が地区17世帯が係わるゴミステーション美化に心を尽くされているご自身の活動を、講座参加を機に手に取った「宝塚市協働の指針」を読まれて「ああ、私の活動は協働としてお役に立てていたんや！」と気持ちを新たにされたり、「きょう・どう？井戸端会議」で地域との接点を見つけ、まずは身近なお手伝いというカタチでの地域参加こそが「活動の芽」として市民社会を支えています。



「きょう・どう？井戸端会議」チラシ



「地域参加準備講座」チラシ



「宝塚NPOネットワーク会議」チラシ

協働の新しい力タチを若者から



若者のさとやま整備体験活動

市民参画事業

- ひょうごボランタリー基金NPO・行政協働助成事業 -

目的

就労に困難を抱える者を含む若者が主体性を持って自律的に北摂地区の里山整備活動並びにその広報活動に参加・参画し、多世代交流や地域資源利活用のための課題解決に取り組むことで参加者自身のみならず関係団体・地域の例として高齢化が進む里山整備団体の活性化を図ることを目的としています。

内容

- ・若者のさとやま整備体験活動(11月～3月)
- ・社会的経験を増やす場の提供として黒川まつり等北摂里山博物館イベントへの参加
- ・広報フェイスブックページ「YES! 地域・若者・里山整備プロジェクト」立ち上げ
- ・里山整備活動啓発用の動画公開・プロモーションビデオ作成



報告

21名

10代 1名
20代 16名
30代 4名

さとやま整備体験
参加者

7名增加

菊炭友の会
若者会員

昨年度川西市より受託した「若者の自立支援事業」の一部「さとやま整備体験」を拡充し、「地域活動の担い手作り」・「地域協力による若者の居場所作り」・「若者の健全育成」・「多世代交流を通じた活性化」を軸に活動しました。

主に20代で構成された参加者は里山ボランティア菊炭友の会による5回の講義・実習や黒川公民館で薪ストーブを囲んでの茶話会などを経て地域活動を体験・体感。就労に困難を抱える若者も主体的に継続参加し、就労や復学の一助となりました。また昨年度事業の参加者によって構成された企画ボランティアは体験活動の進行とチラシ改善・ムービーによる活動広報等スタッフとして支えました。学業や仕事で忙しい中「私たちの大好きなさとやま」のために何か出来ることはないかと真摯に活動する若者の姿は少しづつ地域や団体を活性化に導いています。

活動主旨を分かりやすく体感出来る中期プログラムと魅力を伝える広報手段が整えば、参加者は共感し活動に継続参加してくれると本企画を通じて分かりました。今後は「さとやま」のみならず他の「地域活動」にもこのスキームの応用を図りたいと考えています。



さとやまでの作業場所確認中



間伐作業の見学中



炭焼き実習中

起業・就業・地域参加・ボランティア
アナタの選択を支えたい



シニアがそれぞれの地域への関わり方を考える「シニア大学」

NPO 法人・C B の 起 業、運 営、人 材 育 成 事 業

- 生きがいしごとサポートセンター事業 -

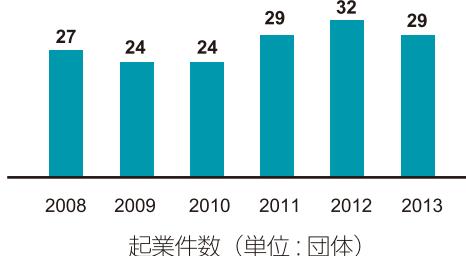
目的

中間支援組織として、NPO、行政、地縁団体、企業等の地域の様々な団体と協力、連携しながら、地域社会の様々な課題を解決するコミュニティビジネス・NPO等を推進し、すべての人々が地域とつながり、生きがいを持って働く「生きがいしごと」の場を創出することを目的としています。

内容

相談者のペースに合わせたNPO法人等のコミュニティビジネス起業支援、団体運営相談、コミュニティビジネスへの就業支援、無料職業紹介事業。本年度はシニア・団塊世代の元気推進を重点として、シニアの起業、就労、地域参加へとつなげる「シニア大学」を開催しました。

積み上げてきた起業実績



就職成立者数は倍増



報告

27回

実務講座

29 団体

(うちシニア起業 **13** 団体)
起業

227 人

就職成立者

本年度は、地域のため社会のためにと考える 29 の団体が巣立ってきました。その形は地域や団体により様々ですが、商工業者が連携しながら地域づくりを行っていく「商工業者連携型」や、自分達の地域の資源を見つめなおして新たな力を発揮していく「地域資源発掘型」が多くみられました。又、シニア世代の起業は 13 団体となりました。

就労相談では、うつや精神障害など難しい相談者や、定年退職前後のシニアの就労希望者が多くある中、常用雇用が順調に伸び、中身の濃いマッチングとなりました。

ボランティア・地域参加・起業・就労の4つを選択肢に、5回に亘ってのセミナー「シニア大学」を開催し、参加者はのべ 150 人となりました。シニア実践者の活動事例紹介、C B まちづくり視察、ワークショップ、起業者の事業プラッシュアップ等を通じ、それぞれの「生きがいしごと」を考えました。シニア起業者と地域の自治会との連携など、講座の外での地域実践活動にもつながっています。経験と知識を地域や社会に活かしていく考え方と考え、実践するシニアの力を実感する一年となりました。



C B フォーラムチラシ



C B フォーラム（参加者 180 名）



「シニア大学」チラシ



シニア大学で地域活動視察

ここから、スタート　何度も、スタート



宝塚地域若者サポートステーション登録者の手のひら

- 地域若者サポートステーション事業 -

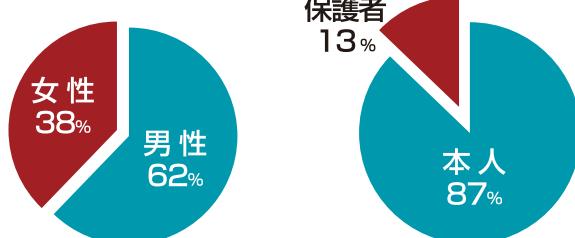
目的

「宝塚地域若者サポートステーション」では、おもに15～39歳の若者（学校卒業・中退後、または離職後、無業の状態にある方）の職業的自立を支援しています。宝塚NPOセンターの特性を活かして、関係機関や学校、地域とネットワークを構築しつつあります。本人はもちろんその家族もサポートし、一人でも多くの若者の進路決定に資することを目指しています。（厚生労働省認定事業）

内容

- ・キャリア・コンサルタント等による職業的自立に向けた専門的相談の実施
- ・さまざまな就職支援プログラム（職場見学・体験等を含む）の実施
- ・学校連携事業（在学生、中退者支援、学び直し支援）
- ・ハローワーク等他の支援機関との連携、ボランティア活動の実施など

利用者の状況



10代 →	4%
20～24歳 →	25%
25～29歳 →	33%
30～34歳 →	20%
35～39歳 →	18%

報告

284 人
新規登録者

90 人
進路決定者

105 回
(のべ参加者 **590** 人)
セミナー回数

5月17日に「宝塚地域若者サポートステーション」（ツカサポ）を新たに開設いたしました。今年度3月末現在の来所者述べ人数は1,847人、相談件数は1,263件。

「働きたいけど何をしたらいいのかわからない」と、働くことに不安や悩みを抱えている若者の数は予想以上でした。悩みは一人ひとり違いますが、スタッフとともに課題や目標を共有し、今年度の進路決定者は90人となり、初年度の目標80人を上回ることができました。多くの若者が就労に結び付いていくことは、本人は勿論のこと、私たちにとっても大きな喜びです。

就労に悩む若者の課題は、家族にとっても深刻な悩みとなっています。日々の生活の中で関係が行き詰まり、言ってはいけないことを言ってしまいます。そんな家族関係を見直す機会として保護者向けセミナーを実施しました。なかなか思うようには進展しませんが、それでも少しずつ改善していく家族関係や変化していく若者・保護者の方たちの姿が私たちの励みとなっています。



「ツカサポ」HPバナー



「ツカサポ」入口



一人ひとりにあつた、進路を発見

緊張な面持ちでスタートしたオリエンテーション

NPO法人・CBの起業、運営、人材育成事業

- 宝塚市若者就労支援事業 -

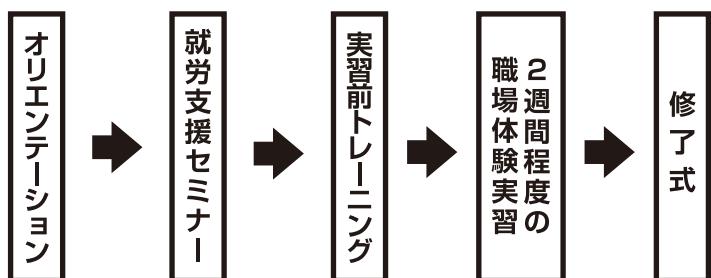
目的

就職に向けて何らかの事情により、自ら就職活動を行うことが困難な若者に対して、社会経験のための学習・訓練・実践的職場体験という多様な段階を踏まえ、働くイメージを育て、就労意欲を高め、一人ひとりにあつた多様で適切な進路を発見し、継続就労が可能となるようきめ細やかな就労支援を行うことを目的とします。

内容

就労に対する考え方や自己理解を深め、社会人として必要とされる基礎力を身に付ける為、セミナー形式の講座を実施。その中でトレーニング事業、生活訓練として、実習に向けての意識を高め生活リズムを整え、本人のニーズに応じた就労支援プランを設定。職場体験実習については、実習先事業所の開拓を行います。

- 仕事が長続きしない
- コミュニケーションが苦手・・・
- 長く仕事をしていない・・・
- 自分に自信がなくて就職活動が進まない



報告

17回
(のべ参加者 **136** 人)
セミナーレコード

7 人
職場体験
実習参加者

2 人
就職決定者

宝塚NPOセンターが、本事業を受託し5年目となります。今年度の受講生は、20~38歳と幅が広く、大学中退者、大学卒業後就職経験者、高校卒業後未就労者と状況も様々な上、社会経験値の差が大きく、講座の進行において、より柔軟な対応が求められました。

講座はコミュニケーション力を身に付けるために必ず会話練習を入れ、自己理解・仕事理解・就職活動と進めていきました。また、自主参加でボランティア活動への参加など、実際に体験することで自信がついていくようにしました。

職場体験実習後には、「今まで表面的にしか見ていなかった職場の裏側を知ることができた」、「『ありがとう』と感謝の言葉を言われたときに喜びを感じることができた」などの声が多くあり、「仕事」の大変さばかりでなく、達成感も得られたようで、今後の就職活動に役立つ経験ができたものと思います。

すべてのプログラムを終えた修了式では、背筋を伸ばし、清々しい表情で証書を受け取る受講生の姿が印象的でした。また、一人ひとり感想を述べる場面では、初めは人前で話をする事が苦手だった彼らも、はっきりと大きな声で、堂々と自分の意見を言えるようになり、この半年間の積み重ねが大きな成長をもたらしたように思います。



交流を深めるための調理実習



経験談を聞いて「働く」をイメージ



本番に向けての面接練習